

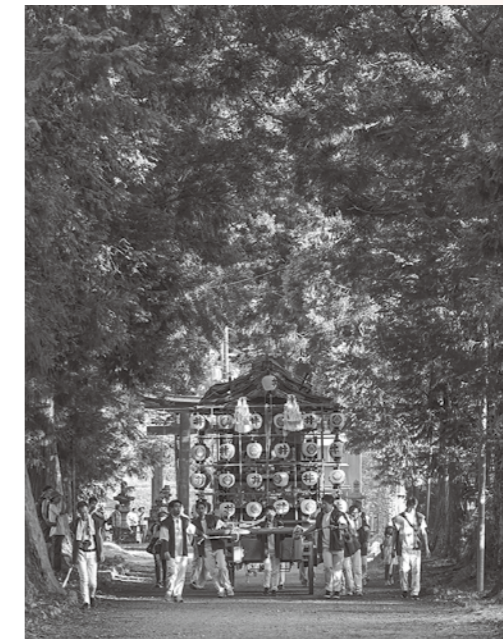
第15回 丹波篠山景観写真コンクールの入賞作品が決定しました

市では、丹波篠山の魅力的な景観を残していきたい景観を多くの人に伝えるため、丹波篠山景観写真コンクールを実施しています。一般の部は69点、児童・生徒・学生の部は47点の作品を応募いただき、審査の結果、次のとおり入賞作品が決定しました(敬称略)。

問い合わせ 地域計画課 ☎552-1118

今年度のテーマは

「世界に発信したい丹波篠山の景観」



最優秀賞

「鎮守の森」
四方卓治 (京都府綾部市)



優秀賞

「夏の白」
荒木秀和 (宇土)



優秀賞

「伝承」
山口徹 (神戸市垂水区)



最優秀賞

「登窯」
水巻晴翔 (福知山市立日新中学校)



創造農村まちづくり賞

「黙の神域」
市川治彦 (南矢代)

一般の部
入賞

- ・「能と光のパフォーマンス」
白木勇治 (京都府福知山市)
- ・「朝もやに包まれて」
三木操 (姫路市飾磨区)
- ・「錦繡の溪谷」
志儀正己 (西八上)
- ・「厳冬」
高橋一甫 (下原山)

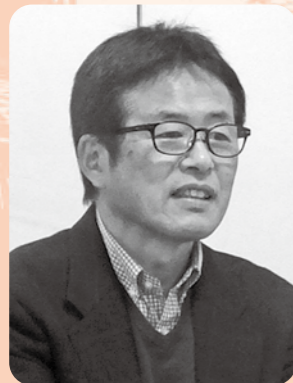
児童・生徒・学生の部

優秀賞 入賞

- ・「桜影の刻」
河南璃香 (武庫川女子大学)
- ・「蓮と篠山城跡」
中谷美海 (南丹市立園部小学校)
- ・「12月の秋」
山田茉穂 (篠山東中学校)
- ・「旅の始まり」
伊山柊花 (英真学園高等学校)
- ・「放課後」
藤井和博 (京都産業大学)

—丹波篠山市景観フォーラム—

地域の人知らない「篠山町家」の魅力と価値
～城下と街道をつなぐ「町家構え」を読み解く～



とき 12月20日(土)
13:30～15:30

ところ 丹波篠山
市民センター
2階 多目的ホール

講師 大場修さん
(立命館大学
衣笠総合研究機構教授)

丹波篠山景観写真
コンクールの表彰式も
同時に行います!



丹波篠山市の歴史的な町並みは高く評価され、観光客や移住者が年々増加しています。時代とともに暮らし方や建物の使い方が変わっていくなかで、町並みを継承するためには、何を語り、何を伝えていくべきでしょうか。今回の景観フォーラムでは、地域の方々も気付いていない丹波篠山の町家の魅力と価値について学びます。

景観フォーラム参加者にも配布予定!

配布場所
地域計画課、各支所、中央図書館、
丹波篠山市市民センター

景観カレンダー2026

12月1日(月)から配布開始!
※先着順で、なくなり次第終了。



山の芋フェア開催!

11月22日(土)～
令和8年2月1日(日)
ところ 市内39店舗
(詳しくは右記二次元コードから)



期間中に店舗で飲食またはご購入いただいた方へ

アンケートに回答すると、抽選で20人に「丹波篠山とろろごはんセット」や「山の芋」などステキなプレゼントが当たる!

XやInstagramで商品の写真に「#丹波篠山山の芋フェア」を付けて投稿すると、抽選回数2倍!

問い合わせ 農都政策課 ☎552-1114

③ センチュウ対策で「クロタラリア」の活用

センチュウは大豆の根に寄生して養分吸収を妨げる害虫で、寄生されると葉が黄色くなり、さや付きが悪くなります。対策として「クロタラリア」の作付けが効果的です。害虫を捕獲して駆除する他、土壌改良や緑肥の効果もあります。10aあたり1.5tをすき込むと、センチュウを大幅に減らせます。5月から7月に種をまき、7月から9月の開花初期、または草高1m程度になったらすき込みましょう。

① 完熟した堆肥を10aあたり1tから2t施し、収穫後に減った土の栄養を補う

② 緑肥作物「ヘアリーベッチ」の活用

土の力を維持・向上させる方法の一つが、緑肥作物の利用です。水稲跡地なら11月下旬、黒大豆跡地なら3月中旬から下旬に種をまきます。そして、翌年5月の開花期までに細かく切って土にすき込みます。すき込み後は、次の種まき・植え付けまでに2週間程度待つ期間が必要です。

黒大豆栽培のワンポイント

問い合わせ 農都政策課 ☎552-1114

今回のテーマは 黒大豆の土づくり対策

黒大豆は、根のコブ(根粒菌)による窒素の利用に加え、土にもともとある栄養分(地力窒素)を積極的に消費する作物です。吸収する全窒素のうち約4割が地力窒素とも言われ、他の作物が利用しにくい古い有機物までも利用するため、「地力消耗作物」と呼ばれます。